

## 令和7年3月市議会定例会請願文書表

|       |   |
|-------|---|
| 請願番号  | 請願第14号  |
| 件名    | 中学校における「41人以上」の学級の解消を求める請願の件                    |
| 請願者   | 八尾市山本町北4-2-24<br>服部 宏<br>八尾市堤町3-51-15<br>馬場野 成和 |
| 請願要旨  | 全文(写し)の通り                                       |
| 紹介議員  | 田中 裕子、越智 妙子                                     |
| 付託委員会 | 文教  |
| 受理年月日 | 令和7年2月4日  |

2025年2月4日

八尾市議会

議長 田中 慎二 様

中学校における「41人以上」の学級の解消を求める請願

請願者 八尾市山本町北4丁目2-24

服部 宏

八尾市堤町3丁目51-15

馬場野 成和

#### 請願事項

市内中学校における中学校41人以上の学級を速やかに解消し、すべての学級が40人以下になるようにしてください。

#### 請願趣旨

文部科学省はこの間小学校で35人学級を順次実施してきました、しかし、順次実施のために「40人学級」の学年では「41人以上」の学級が存在してきました。

これは特別支援学級の児童を通常学級児童数に入れない（ダブルカウントしない）で学級編成をするために起きました。特別支援学級に所属する多くの児童は道徳を含め教科学習や学級活動・学校行事などを通常学級で生活しています。これでは特別支援学級の児童はもちろん通常学級の児童も「いきとどいた教育」を受けることはできません。

この事態に対して、八尾市においては今年度を含めて3年間小学校の支援学級の児童を「ダブルカウント」して「41人以上の学級」をなくす独自の措置がとられて、子どもたち・保護者はじめ学校関係者・教職員から歓迎されてきました。

一方、この間国から「中学校の35人学級実施」がされず、八尾での独自措置がとられなかったために、中学校では「41人以上」の学級が存在してきました。

このような状況の下、文部科学省は2026年度から中学校の「35人学級」を実施する方向を示しています。ただこの施策では、2025年度は中学校での「41人以上の学級」解消されません。八尾市教育委員会の2024年5月1日付調査では、中学校で「41人以上の学級」が5中学校6学年で存在します。2025年度においても同じ状況が予想されます。

この間の小学校と同様に、八尾市として中学校においても2025年度すべての生徒に「いきとどいた教育」を保障するために、国の基準を超える「41人以上の学級」の解消の措置を取ってください。とりわけ中学生は、思春期真っただ中で、心身ともに大きく成長変化し、進路選択にも直面する時期であることを踏まえて対応していただくよう強く求めます。

#### 紹介議員

越智 妙子

田中 裕子